540
KO YO EN
SHARE HOUSE
- 甲陽園の縁結び -

変わりゆく時代の流れにとり残された○長旅館。空っぽになった建築に新しい息吹を吹き込むことで、人と人の"縁"が生まれる場所となる。

■ Context

甲陽園と○長旅館

兵庫県西宮市甲陽園。行楽地として栄えた頃はその後、高級住宅街へと発展し、近年は外国住宅やマンションの建設が進んだ。長期間お元気の住人の駅への通り道に面し、駅から徒歩5分と好立地である。

地形の甲陽園と○長旅館。S=1/10000

1. 山林地域

1924 年頃の甲山

甲陽園は甲山の南側、福住たりのよい傾斜地に位置する。

2. 行楽地としての賑わい

第六阪と甲陽園駅を結ぶ、風には事業型平面開発が立ち上がる。

1918 年に始まる開発によって様々な娯楽施設を備えた「甲陽公園」ができる。数の関東に乗じて高級料理旅館が軒を連ね、国立の宅地開発も行われた。

3. 昭和恐慌と近代化の流れに乗り遅れ衰退 住宅地へと発展

昭和恐慌や近隣の娯楽施設との競合により行楽地は衰退する。しかし、戦後の住宅地不足により周辺宅地開発が進む。こうして甲陽園は住宅地として第二の発展期を迎える。

4. 成熟する高級住宅街と 行楽地の名残としての旅館

現在でも有数の高級住宅地となる。別荘や、行楽地の名残として残る旅館も甲陽園の個性を形成する重要な要素となり、日常と非日常が混在する特殊なまちができあがる。○長旅館は1979 年開業し、団体の宴会場や高級夜空の装飾として利用された。

5. 甲陽園のいま 進む開発と変わりゆく街並み

新築分譲住宅、マンションの開発が進む。こと十数年で宅建料理旅館の大半が姿を消し、開発による宅地細分化によって、甲陽園が有してきた静穏が損なわれつつある。また、多様な住民が混在している点、複後開発された新興住宅地という背景から地縁を形成する活動が少なく、地域住民が集える施設利用も少ない。

6. これから

空っぽになった○長旅館

甲陽園と○長旅館はどうなってしまうのだろう？

1918 1924 1930-31 1979 2013 2014

■ Concept

▼1. 人が繋がる居場所づくり

近年、甲陽園では分譲マンションの建設が増加し、多様な世代が集まる街へと移り変わっている。もともとコミュニティ意識の高い街ではあるが古い地縁のない人が多数流入したことでコミュニティがより希薄になりつつある。「人の繋がり」を形成するための場、コミュニティ活動を支える場が絶対的に不足している。そこで、人の繋がりを促す新しい場として「シェアハウス」と「地域の居場所」が提供する建築を提案する。双○長旅館と共に新たな○長旅館を創出。

▼2. まちに展開する地域の居場所

甲陽園の駅前、別荘などの建築と周囲の緑が豊かなすばらしある景観はこの土地固有の価値であり、傾斜地という地形的特性と融合して固有の風景を醸成させてきた。近年の開発による景観破壊を防ぐ必要がある。空き家になった別荘や旅館を再活用する。○長旅館のプロジェクトをモデル事業として、空き家になった別荘や旅館に「シェアハウス×地域の居場所」を導入する。景観を守りながら、まちに地域の居場所を点在させることができ、傾斜地に住まう高齢者も無理なく訪れられる。

■ Proposal -hard-

開かれた建築の佇まい、開かれた居場所へ

旅館建築を地域の居場所へと生まれ変わらせるため、既存建築をまちに開かれた佇まいへと改修する。

外構の中心を通り、ウッドデッキを設けて開放する。通り側の掃や1階の壁を取り払い、全面引き戸にすることで、内部の様子が見え、訪れやすい雰囲気をつくる。

内部では、既存建築的な⑦大きさ、それぞれの場所性を活かし、多様な居場所のあるひとつながりの空間をつくる。利用者は歩きながらお気に入りの居場所を見つけ、様々な発見、出会いを体験する。1階には カフェ、レクチャー、ライブラリーの3つのゾーンを配置し、地下は様々な用途に利用できるフリースペースをつくる。1階から地下へは深り込める⑦既段を大きく取り、吹き抜けを設けることで、地下空間の視先を改善し、利用度を高める。手入性、⑦固性を高めることで、それぞれの空間と場所性を持ちつつ、五感豊富な⑦別にゆるやかに繋がる。(Perspective 1, 4)

▼1. 全面引き戸、ウッドデッキ ▼2. 既存建築の空間を活かす まちに開く

▼3. 多様な居場所のあるひとつながりの空間

■ Proposal -soft-

「学生の新しい暮らし方」がまちを変える

人を駆くきっかけをつくるのは、この○シェアハウスに住む学生だ。

「5 4 ○シェアハウス」には地域の居場所としてカフェ、ライブラリー、⑦子屋、イベントやレクチャー、ワークショップを備えフリースペースを設け、学生はそこで働けることとした。(Perspective 2, 3, 4) 通常、観光を離れて一人暮らしをはめる学生は地域との接点を持ちにくい。一方、このシェアハウスに暮らす学生は、地域の居場所で働くことで、自然と地域コミュニティの輪に溶けこめることができる。

学生の意向や大学のスケジュールに応じて、カフェのウェイター、ライブラリーの運営、フリースペースのイベント企画など、学生は様々な仕事に取り組み、主体的に仕事を生み出していくことができる。

また、○長旅館の改修と平行して、「まちの図書館プロジェクト」を学生とともに進める。ライブラリー開設のために不要になった本を集めながら、地域の居場所がまちにできることを地域住民に宣伝する。自分のお気に入りとなった5 4 ○SHARE HOUSE に対する愛着をも地域住民にもうらいやすくする。

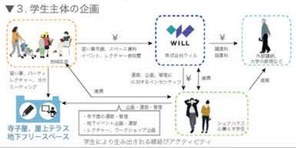
学生が「住み」ながら、地域の中で「働き」、地域の中で「学び」暮らした、暮らしを変えてみることで、学生は地域との接点を自然と持つようになり、地域住人の交流を促す。

▲ある学生の週間スケジュール

▼1. 雇用のあるシェアハウス

▼2. まちがつくるライブラリー

▼3. 学生主体の企画



■ Persepective

▲1. カフェ横から全体を見る ○長旅館のもつ敷地、建物の大きさを活かしたひとつながりの空間

▲2. カフェ＆バー / 全面引き戸によってどこからでも出入りが可能

▲3. 寺子屋＋ライブラリー / 建物の既存の良さを解釈しなおしてつくる新たな居場所

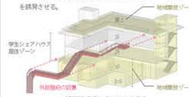
▲4. 地下のフリースペース / 大階段と吹き抜けを設けることで得られる開放的な空間

■ Project

外部階段がまちと個室をゆるやかに繋ぐ

▼1. 建物をめぐる外部階段

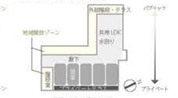
地下、1階、屋上は地域開放ゾーン、2、3階は学生シェアハウスの居住ゾーンである。敷地から屋上まで5 0 ○る、各階のテラスを繋ぐ外部階段を設けける。各所の吹き抜けと外部階段により、シェアハウスと地域の緩衝的という2種類のプログラム、内と外、建物と まち、これらの境界をぼかし、シェアハウスの住人や地域住民の自然なコミュニケーションを誘発させる。



新設外部階段とプログラムの機能

▼2. 住居専用フロアの平面計画

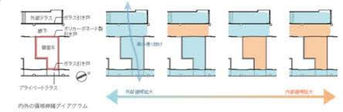
10室の個室を各階5室ずつ進東に配け、共用部下を挟んで向かい合うように住戸を配置する。進東に向かうほどプライバシーが確保される。既存の開口がほぼ均等になるようにお戸の壁をずらし個室の割り当てを決定した結果、テラスを含め14.5㎡~20㎡とバリエーションのある個室ができた。



住居フロア ゾーニング

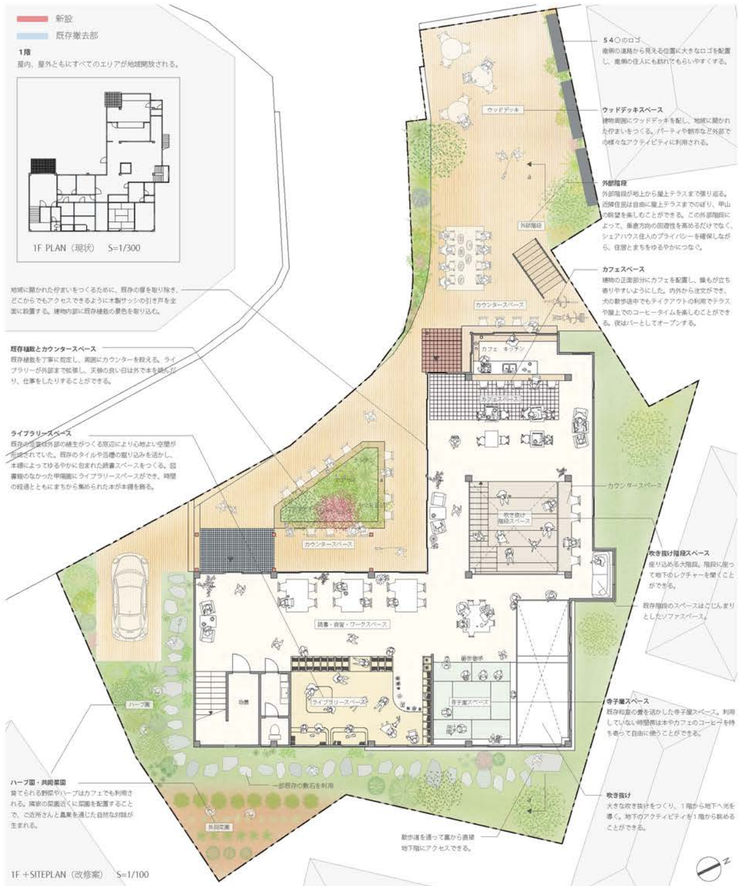
▼3. 領域の伸縮性、光と風の伸縮性を備える住戸

すべての個室は進東側と北西側の引き戸により面接完である。プライベートテラス、個室、廊下、外部テラスによって、内と外のレイヤーが重なり、住人の生活や気候によって廊下までが領域を拡大したり、外部を取り込むといった多様な住まい方が可能である。ポリカーボネート製引き戸はたを透過しつつも視線をゆるやかに遮り、ワンルームマンションでは得られない通風・採光環境を備えた個室が実現される。



▲個室 / プライベートテラスを望む。サッシが取り除かれた既存の⑦神から光が入り込む。

▲3階廊下 / シェアハウスに暮らす学生は在宅時、引き戸を開閉することで領域や環境を自ら調節する。外部階段・テラスが個室とまちをゆるやかに繋ぎ、引き戸を開けると外部テラスに向かう緩衝ができる。


新設
既存撤去部
1階
屋内、屋外ともにすべてのエリアが地域開放される。
1F PLAN（現状） S=1/300
地域に開かれた佇まいをつくるために、既存の壁を取り除き、どこからでもアクセスできるように⑦段やテラスの引き戸を全面に設置する。建物内部に既存建物の景色を取り込む。
既存建物とカウンタースペース
既存建物を丁寧に⑦定し、周囲にカウンターを設える。ライブラリーが設定で使用し、天井の高い⑦は外できる静かな場所となり、仕事をしたりすることができる。
ライブラリースペース
既存の⑦子状の部分の壁をぶつくる形⑦により心地よい空間が生み出されている。既存のタイル⑦面の壁は塗り込み全面に木棚によって⑦ゆるやかに包まれた読書スペースをつくる。図書館のなかった甲陽園にライブラリースペースができ、時間の経過とともにまちから集められた本が本棚を飾る。
5 4 ○のロゴ
建物の⑦路から見える位置に大きなロゴを配置し、進東の住人にも訪れてもらいやすくする。
ウッドデッキスペース
建物周囲にウッドデッキを設し、地域に開かれた行まいをつくる。バーベキューや野外⑦⑦会など様々なアクティビティに利用される。
外部階段
外部階段が地上から屋上テラスまで繋り巡る。⑦段位置は自由に屋上テラスまでのばり、中山への望を楽しむことができる。この外部階段によって、垂直方向の回遊性を高めるだけでなく、シェアハウス住人のプライバシーを確保しながら、住居とまちをゆるやかにつなぐ。
カフェスペース
建物の正面部分にカフェを配置し、様々が立ち寄りやすいようにも、外外から⑦望が⑦き、その⑦動⑦⑦中でもテイクアウトの利⑦でテラスや屋上での⑦ーヒータイムを楽しむことができる。併はバーとしてオープンする。
寺子屋スペース
既存和室の⑦を活かした寺子屋スペース。利用していない時間帯は本やカフェのコーヒーを持ちだして自由に使うことができる。
吹き抜け
大きな吹き抜けをつくり、1階から地下へ光を通⑦、地下のアクティビティが1階から眺めることができる。
ハーブ園・共同菜園
食べられる野菜やハーブはカフェでも利用される。隣家の⑦園にて⑦園を⑦置することで、ご近所さんと農業を通じた自然な対話が生まれる。
1F +SITEPLAN（改修案） S=1/100

a-a' SECTION (改修案) S=1/100

新設
既存撤去部
地域開放ゾーン
学生シェアハウス居住ゾーン

3階
北西側に水回り、ランドリールームを配置する。個室前の廊下から外部階段に直接出ることができる。廊東側の既存の⑦の位置が2階とは異なるため、個室の間取りはより⑦密になる。

3F PLAN（現状） S=1/300

階段を屋上まで延長する。
階段室は地域開放ゾーン。

3F PLAN（改修案） S=1/100

住戸の剥り方
既存の壁面にまんべんなく⑦えられるように壁の位置を決定する。既存の⑦神からサッシを撤去、手すりを新設し、プライベートテラスをつくる。

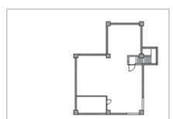
2階
北西側に共用リビング、ダイニング、キッチンを配置する。キッチンはみんなで使用しやすいようにアイランド型とした。ダイニングから⑦接外部階段・テラスにでることができ、天気の良い日は外で食事ができる。共用リビングに設けられた吹き抜けから1階、地下の様子が見える。

2F PLAN（現状） S=1/300

2F PLAN（改修案） S=1/100

地下1階
1階と同じく地域開放ゾーンであり、裏からアクセスすることも可能。

地下フリースペース
既存の地下空間の広さを最大限に活かす。大人数での講演会やパーティ、ヨガやダンスなど⑦軽なスポーツ、カーテンで仕切ってワークショップやレクチャーなど、様々なアクティビティに対応できる。



B1F PLAN（現状） S=1/300

B1F PLAN（改修案） S=1/100

NORTHWEST ELEVATION (改修案) S=1/100